

## 上海における領事館・自治体が連携した スノーリゾート説明会の開催について

2018年12月

(公財)福島県産業振興センター上海代表処

(福島県上海事務所)

所長 渡邊憲夫

中国国内では、2022年に北京冬季オリンピックが開催されることから、爆発的なスキー人口の拡大が見込まれています。中国国内にもスキー場はありますが、日本のスキー場よりも寒く、人工降雪機も使っているため、パウダースノーを求めて日本に行きたくてスキーを楽しむスキーヤーもいます。

そこで、在上海日本国総領事館、日中経済協会北海道経済交流室、宮城県上海サポートデスク、群馬県上海事務所と福島県上海事務所で、日本のスキーリゾートに関する説明会を開催することとしました。昨年度も自治体合同で開催しましたが、今年度は特にスキーをしたことがない方にも参加していただけるよう、初心者講座も開催することとし、冬季のインバウンドの更なる拡大を目的として実施しました。

特に福島県は、東日本大震災による風評がいまだに根強く、福島県を訪問する中国人の方は震災前を越えはしましたが、他の地域に比べると、まだまだ少なく、テーマ性のある観光は受け入れやすいということもあり、力を入れているところです。

説明会は11月25日(日)に在上海日本国総領事館多目的ホールで開催し、当日は98名の参加者がありました。

上海スピードスキークラブの流浪(通称)氏から、スキーの服装や、注意点、リフトの乗り方、スキー以外の楽しみなどについて、ご自身の豊富な経験を踏まえた説明をしていただき、各自治体から、アクセス方法から詳細なスキー場の説明、スキー以外の楽しみ方など、冬季でしか体験できない様々な魅力を説明しました。

質疑応答では、「中国人インストラクターがいるスキー場はあるか?」といった初心者の方からの質問や、「圧雪されていないスキー場はどこか?」など、ある程度経験のある方からの質問もあり、関心の高さがうかがわれました。

最後は、各自治体提供のプレゼントが当たる抽選会で締めくくり、ゆるキャラグッズや特産品、スキー関連景品に、会場は一喜一憂していました。

今後も各自治体と連携して、日本のスキーの魅力を理解していただき、インバウンドの誘客につなげていきたいと考えています。



会場の様子



各自治体のポスター



抽選会の様子